
ある傘の話

雪芳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある傘の話

【Nコード】

N4885J

【作者名】

雪芳

【あらすじ】

大雨が降る駅でのこと。

夕暮れ時、唐突に雨が降りだした。

僅かに残った桜の花びらを叩き落とすための雨だろうか。瞬く間に豪雨に染められ、街はおぼろになる。

白んだ街で一番大きな駅。その入り口で、一人の年老いた女性がため息をついていた。雨を見上げる彼女の右手には杖、左手には駅に隣接するデパートの紙袋。

「ひどい雨……」

どうやら、傘を持っていないらしい。眉を八の字下げて、彼女は淀んだ雲から虚ろな街へと視線を下ろした。雨は激しさを増し、アスファルトを堤にして川のように流れている。車が水を掻いて走る、傘を差す歩行者たちの足は冷たいグラデーションを描く。

とてもではないが、出られそうにない光景に、彼女のため息はより大きくくゆった。

駅からどやどやと人混みが外へ出る。制服に身を包んだ学生たちが学を終えて帰宅するのだろう。彼らは強い雨にひとはく躊躇い愚痴をこぼしながらも、次々と彼女を背中にし、傘を差し、あるいは鞆を抱えて豪雨へと飛び出して行った。

彼らのような行動は、足も悪くなった彼女には出来ないものだ。

彼女は幾分羨ましそうに、遅しい彼らの背中を見送っていた。そうしてまた、ため息が唇から漏れそうになった時、横からすつと、何かが差し出された。見やると、傘だった。

俯きぎみだった顔を上げると、薄茶色に髪を染めた黒縁眼鏡の学生が傘を差しだしている。

「これ、どうぞ」

彼女は目を丸くしてから、反射的に手を振った。

「とんでもない！ 私は大丈夫ですから」

当然の所作だ。見知らぬ若者から傘を受け取るわけにはいかない。

「俺は傘あるんで」

しかしながら彼は彼女に傘を握らせると、そのまま雨の中へと飛び出した。学生の群に入り、その中のひとつの傘に割り込んで、相合い傘で立ち去ってゆく。

瞬く間の出来事。

あまりのことに、ぽかんとして彼女はその背中を見送ってしまった。

啞然として確認する手。握られているのは杖と荷、そして一本のビニール傘。学生らしいその品に、もちろん名前など記されていない。

「困ったわ……」

呟く彼女、その目の前に一台の軽自動車が停止した。

「やっと見つけた。携帯持たなきゃ意味ないだろ、ばあちゃん」

助手席の窓を軽く開かれ、運転席から青年が身を乗り出す。

「あれ、迎えは幸恵さんに頼んだんだけどね。あんた学校は」

「前期は木曜日休みなんだってば。良いから乗って」

青年の声に急かされて、彼女は傘を差して助手席のドアを開け、荷を足下に置いた。それからよっこらと腰をかける。

「ばあちゃんビニール傘買ったの」

「ああ、これねえ」

彼女は塗れそぼった傘の滴を払いながら、

「あんたと同じ年くらい……」

視線をはたと止めた。

透明なビニール。簡単に折れてしまいそうな骨組み、安っぽい柄。白いその部分をかじかむ指で撫でさすると、

「ゆたか、あんた一人で帰んなさい」

「え？」

傘を再びパンツと開いた。

「ちよっ、ばあちゃん雨ひどいよ。寄りたいところあるなら行くし」

「今日はせっかくの雨だからね、傘差して帰るよ」

彼女はさらりとそう言うと、元気に学生たちが立ち去っていった歩道へと足を向けた。

透明な膜から仰ぐ空は薄暗い。先ほどよりは落ち着きながらも、雨は依然激しいはまだ。バタバタとアスファルトを叩いて、止むことを知らない。肌寒い。

けれど彼女の年齢にそぐわない傘は、不器用に彼女を雨から庇うだろう。

その柄は白。そして少しの赤、駅ビルの中にあるコンビニのシール。買ったばかりの証が、照れくさそうについている。

「ほんに、ひどい雨」

吐息をもらす。その一方で微笑みながら、彼女は白む街へと足を向けた。

(後書き)

2009年執筆。

ほのぼのは書いていて楽しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4885j/>

ある傘の話

2010年12月31日06時46分発行